



伊那弥生ヶ丘高校同窓会報

令和元年 8月1日 発行

第10号



味噌作り・大正二年



大正時代後期 東京帝大にならって植えられたイチヨウ並木

学校創立 1911年（明治44年）創立108年目

卒業生総数 26,500名 平成31年3月末現在（伊那高等女学校等5,088名・伊那那弥生ヶ丘高等学校21,412名）



ご挨拶

同窓会長 下島 典子

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

この度、久保田会長の後を引き継ぎまして新会長になりました下島でございます。常任理事、理事、会員の皆様と力を合わせ、同窓会をさらに盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

5月末に同窓会の最大行事であります総会を開催いたしました。

本校でも教鞭をとられた山口通之先生の「大正～第二次大戦時の伊那高女（現伊那弥生ヶ丘高校）の教師群像」をテーマに貴重な歴史的事実や教師の生きざま、生徒の学びの姿勢などをお聞きし、改めて母校を再認識いたしました。ダンス部のステージでは弾けんばかりの若い力を感じ、恒例の茶道部の呈茶も好評でした。

5回目となります弥生展は、95歳の大先輩の作品な

ど手芸品、絵画、生花などが一週間展示され、年代を超えた同窓生のお話の輪が広がりました。

初めて東京支部の総会にも出席させていただきましたが、百数十名の参加で賑やかに歓談され、慣れ親しんだ校歌を心は“乙女”に戻り歌う姿に弥生ヶ丘の伝統を感じ、感銘いたしました。また初めて器楽部が招待され、3年生13名の演奏に温かい拍手と激励の言葉をいただき、在校生と同窓生の絆が深まりそうな嬉しい想いで胸がいっぱいになりました。

学校、PTA、同窓会の三者懇談も3年前から始まりました。心一つにして母校、在校生に対する支援を今後も続けてまいりたいと思っております。

今後も変わらぬご支援をよろしくお願申し上げます。



弥生ヶ丘の今

学校長 平澤 裕二

今年度4月に伊那弥生ヶ丘高等学校に赴任してまいりました平澤裕二と申します。弥生ヶ丘には平成11年度から19年度まで9年間在職していましたので、何か不思議な縁を感じております。微力ではありますが、学校発展のため、弥生生のために力を尽くしたいと思っております。どうぞよろしくお願申し上げます。

同窓会の皆様方には、日頃より母校の教育活動充実のために様々なご支援をいただいております、厚く御礼申し上げます。

4月には創立以来108回目となる新入生243名を迎え、全校生徒722名でスタートを切ったところであります。生徒たちは毎朝、4月には満開の桜並木の下を、5月になると新緑の銀杏並木の中を歩いて元気に登校しています。

お陰をもちまして、弥生生は近年、文武両面で大いに活躍しております。昨年度の卒業生は、約8割の生徒が四年制大学へ進学し、特に国公立大学へは過去最高の58名が進学しました。部活動につきましても、昨年に続き、女子ソフトテニス、少林寺拳法の女子生徒がインターハイへ出場します。文化系でも、器楽部が全国コンクールと全国総文祭へ県代表として出場することが決まっています。6月の弥生祭が終わると、創立100周年記念事業で整備していただいた自習室「日輪館」で、進路実現に向けて学習に励む生徒が増えていくと思っております。

末筆ながら、同窓会の皆さまの益々のご健勝をお祈り申し上げますとともに、今後とも母校への変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

退任挨拶

前同窓会長 久保田 裕子

この度退任することとなりました。

副会長、会長在職中は、会員皆様のご理解、ご協力のもと、無事役を務めることができましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

同窓会は会員の皆様の母校を愛する気持ちで成り立っているという当たり前のことを、活動の中で強く感じることもあり嬉しい思いをいたしました。と同時に伊那弥生ヶ丘高校で共に学んで培った絆は、思っている以上に

とても貴重なものであることも改めて気付かされました。

今、世の中は少子化、グローバル化等急激に変化しています。それに伴い学校教育も変革が迫られています。そうした動きに対応しつつ、伊那弥生ヶ丘高校同窓会が今後とも意義ある組織であり続けること…、さらなる会員の交流と、学校、在校生に対する有効な支援…、を願ってやみません。

これからも会の益々の発展をお祈りしています。

令和元年度役員組織

<敬称略>

会 長

下島 典子

顧 問

学 校 長 平澤 裕二

教 頭 浅井 真也

事 務 長 吉澤 淳

同窓会担当職員 向山 昇治

// 常田真由美

副 会 長

鈴木のり子

西原 功

常 任 理 事

理 事 (支部長)

組織委員会

○木下久美子

丸山 紀子

安積 順子

教養文化委員会

○広瀬夏葉子

守屋あつ子

酒井裕美子

小松 正芳

百瀬 哲也

伊藤 圭子

広報委員会

○中村 繫子

小林 里美

金沢千佳子

高校改革研究委員会

○守屋あつ子

中村 繫子

木下久美子

安積 順子

広瀬夏葉子

百瀬 哲也

伊藤 圭子

坂 下 滝沢 宏枝

荒 井 原 静江

西 町 池田喜美子

中 央 有賀喜志子

山 寺 福沢さゆり

御 園 滝 治子

境 北原 友子

日 影 中村 栄

上 の 原

伊那東南 馬場 規生

伊那東北 宮原 和彦

美 原 原 真由美

伊那西部 網野 喜彦

美 篤 酒井さつき

手 良 向山 明美

東 春 近 横田 美幸

西 春 近 倉田みきえ

富 県 北沢いまゑ

新 山 武井 仁美

西 箕 輪 有賀 正利

高 遠 田中みのり

藤 沢 伊藤千恵美

河 南 宮原 恵子

長 藤 伊藤 俊成

三 義 北原 房子

長 谷 宮下恵美子

宮 田 河井 啓子

赤 穂 平沢 明子

東 伊 那 福澤 美恵

中 沢 宮脇 陽子

飯 島 笠原 貞子

中 川 中村喜久恵

南箕輪北部 堀 千恵子

南箕輪南部 鹿角 幸子

箕 輪 藤沢 温子

木 下 小島ゆかり

松 島 矢澤 和枝

箕輪北部 増澤 優子

箕輪西部 唐澤 房代

東 箕 輪 小嶋千枝子

辰 野 金子 恭子

宮 木 小松 智之

竜 東 上條 真弓

辰野北部

辰野南部 村上 律子

小 野 赤羽 美穂

東 京 奥村 桂子

監 事

小林 耐子

原 紀子

幹 事

各卒業学年の

クラス代表

事 務 局

田中真奈美



令和元年度 総会

今年度総会は5月25日、「いなっせ」において開催されました。久保田会長は挨拶で「明治44年、31人の女子学生からスタートした母校が長い時を経て時代の流れと共に変化してきているが、先人の努力で守ってこられたことに敬意と感謝の気持ちを持ちつつ、学校と生徒さんの将来のために同窓会がより有意義な組織であり続けたい。会員の皆様のご協力とご理解が同窓会を築いていることに感謝しつつ、活動をより充実させていきたい。」と述べました。

総会では昨年度の事業、決算及び今年度の事業計画、予算案について審議が行われ承認されました。また役員改選により、退任する久保田会長の後任として新たに下島典子新会長が就任しました。



講演会【伝承すべき伊那高女の教師群像】

上伊那郷土研究会会長の山口通之先生より「大正～第二次大戦時の伊那高女（現伊那弥生ヶ丘高校）の教師群像」をテーマにご講演いただきました。

《講演会資料より一部抜粋》

教師像を取り上げた理由…

これまで勤務校で「学校史」の編纂に携わる機会があった…学校史をまとめる際には、開校の経緯とその後の歩み、校風はどのようなだったのか…、戦前に開校し長い歴史を持つ学校の場合は、明治～大正デモクラシーといわれる時代、やがて悲運な戦時に遭遇し激動と苦難の中でどのようなであったのかを探ってみるのは、現在の不透明な世情を生きる上で何かしら教訓になりはしないか、かつ近現代史をひも解くことになりはしないか…私は伊那高女に在職した教師の中で以前から何人かが気がかりになっている。



山口通之先生

井月研究の先駆者として知られる高津才次郎、地質学研究で功績があった八木貞介、伊那で萩原井泉水や山頭火を案内した前田若水、名古屋の動員先から生徒の帰校引率した淀川茂重、北原真人、白鳥伝といった母校に在籍した教師らを取り上げ、激動の時代に教育者、研究者として歴史に残る活動をした多くの教師の貴重な歴史的事実や生きざま、生徒たちの学びの姿勢を、現役の高校生や同窓生、さらには地域の方々にも伝えていきたい。また、激動の時代の中での先進的な教育実践は今の時代でも十分に参考になり、学求的で、地域の方々との幅広い視野での連携や、これらの諸氏の生きざまは様々な点で教訓である…と話されました。

母校がこの時代の伊那の文化の中心であったこと、そして全国的なレベルで認識されている教育者が母校で教鞭をとられていたこと、またその教えを学ぼうとしていた当時の生徒の姿勢にも強く感銘を受けました。聴講された皆様が、改めて母校への想いを強くした一日になったのではないかと思います。



力作が一堂に

弥生展

総会に合わせ、5/20～26の会期で弥生展を開催しました。

今年度は絵画と手工芸の作品を展示し、絵画は日本画、洋画、パステル画など、手工芸は押し花や手織り、陶芸、刺繍、パッチワーク、セーターなど、50点以上の作品が所狭しと並べられ、多くの来場者で賑わいました。指導者として活動していたり、また日々の楽しみの中で製作したりした力作を鑑賞する中で、新たな同窓生の輪が広がっていました。

人の数だけ趣味があり、その趣味を楽しむことによって心がリフレッシュし、人間関係も広がって、心豊かに暮らせるのではないかと弥生展を通して感じます。



北原益子さんと作品



クラフトコーナー



絵画コーナー

出品者の中で最高齢の北原益子さん（高女29回・伊那市）は折り雛やブローチ、レース編みなど、長い年月趣味として丁寧に作り続けてこられた繊細な作品の一部を出品していただきました。

母校クラブの皆さんにご協力いただきました

総会は、同窓生のみでなく在校生との交流も図り、クラブ活動を応援する機会としています。

総会開始前には、邦楽部による箏曲の演奏をBGMに、茶道部のお手前でお茶とお菓子をいただきました。また華道部にはホールステージに季節の花を美しく飾っていただきました。

総会後のアトラクションとして、ダンス部にエネルギッシュなステージ発表をしていただきました。

生徒さんのご協力をいただき、出席された会員の皆様の久々の再会に彩りを添えることができました。



若いエネルギー



朝のしらべ



お呈茶のコーナー



ステージ装飾





今年度当番生より

◇令和元年度同窓会の当番学年役員を終えて

中原美千穂 (高校30回)

新しい年号になる節目の年に当番学年だったことは、後々まで記憶に残ります。昨年の秋より月一回の打ち合わせを行い、準備を進めてきました。最初は何をどうすればよいのか、これで本当に役目を果たせるのか、不安が大きかったです。しかし、当番学年役員の皆さんがクラスごと率先して役割を分担してくださり、当日は無事役目を果たすことができました。



総会後の講演会では弥生ヶ丘高校の前身伊那高女の先生方のこと、在校生の呈茶サービス、ダンス部の発表、同窓の先輩方の作品展など、同窓会に参加しなければ知らなかった素晴らしい内容に触れることができました。

また、卒業以来40年以上会うことのなかった、懐かしい同級生、同学年生との再会の機会となり、今後のつながりを深めるきっかけとなりました。今回は貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。歴史ある母校、同窓会の今後の発展をこれからも応援していきます。

◇同窓会懇親会の当番生を終えて

橋本 美季 (高校40回)



新しい年号の元で迎える懇親会当番役員として、伝統ある伊那弥生ヶ丘高校の同窓会に関わらせていただき、身の引き締まる思いと共に、重圧を感じる日々でした。

40回生は、仕事や子育て、居住等の理由で役員が集まらず、不安ばかり募りました。しかし、30回生代表役員の中原会長をはじめとした当番役員の皆さん、司会担当の40回生松本さんらと話し合いを重ねるうちに、月一回の役員会も待ち遠しく、いつしか不安も消えてしまいました。

進行指示がうまくできず、只々反省点ばかり思い出されますが、多くの皆様方の協力をいただき、素晴らしい懇親会を作り上げることができました。心より御礼申し上げます。

多くの同窓生の皆様と出会えた貴重な経験を大切に、これからも母校同窓会の発展を応援していきたいと思っております。

令和2年度総会のお知らせ

- ◆ 期 日 令和2年5月30日 (土)
- ◆ 会 場 伊那市生涯学習センター「いなっせ」5階・6階
- ◆ 当番学年 高校31回 (昭和54年3月卒業)、高校41回 (平成元年3月卒業)

弥生展のお知らせ

※書道・工芸作品を展示します。

- ◆ 会 期 令和2年5月25日(月)～31日(日)
- ◆ 会 場 伊那市生涯学習センター「いなっせ」2階 展示ギャラリー

※同窓生の皆様の素晴らしい交流の場となるような会にしたいと思いますので、ぜひ多くの皆様のご出席をお願いいたします。詳細につきましては決まり次第ホームページ等でお知らせします。



□ よみがえった「月見草」 ～大正時代の伊那高女生の愛唱歌

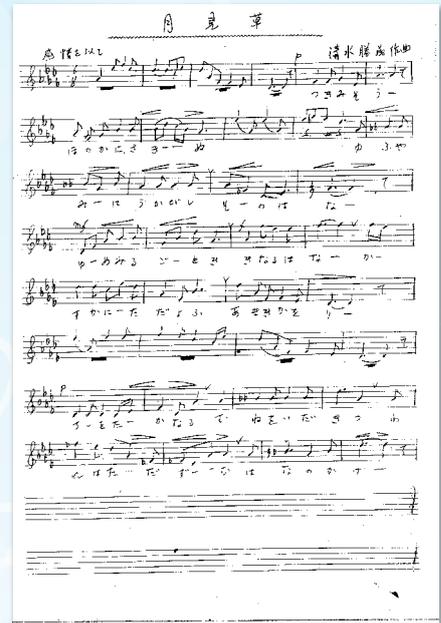
平成6～7年、新聞各紙に多数掲載されたものより引用

大正時代に伊那高女の女学生の間で大流行したという愛唱歌「月見草」。歳月と共に忘れられていたこの歌が、ゆかりのある方々の大変な尽力によって7年の歳月をかけてよみがえった。

「月見草」を作詞したのは黒河内八千代さん（高女8回）、作曲は当時の伊那高等女学校で音楽教師をしていた清水勝蔵さん。黒河内さんは飯島町の旧家桃沢家に生まれ美貌と才知を兼ね備え「伊那の白蓮」と言われ、あこがれの的だったという。また清水さんは旧伊那町の旅館に生まれ、東京音楽学校（現東京芸大）バイオリン科を首席で卒業し昭和天皇が皇太子時代に御前で演奏したこともあるという。

乙女の切ない恋心を歌ったこの歌は、女学生たちの心に鮮烈にしみこみ、大流行したものの次第にいつしか忘れ去られてしまった。

多くの人々の熱意によりよみがえった「月見草」はその後伊那フィル交響楽団や母校音楽クラブにより復活された。



大変貴重な資料が手に入りました。激動の時代を乗り越え、百年余の歴史を繋いできた同窓会の資料として整理し、遺していきたいと思えます。皆様のお手元に同窓会に関する尊い記録が埋もれているかもしれません。是非事務局までお知らせください。

□ 高校改革への対応

県教育委員会が推進する「第2期高校再編計画」及びそれを受けて設置された「上伊那地域の高校の将来像を考える地域協議会」に対して同窓会としては高校改革研究委員会を中心に対応を図っています。

現在までの状況は次のとおりです。

現状把握及び課題の共有を図るため、一昨年度より開催されている地域懇談会への出席、地域協議会の傍聴、各団体で行っている学習会への参加、また、昨年4月と5月には県教委及び上伊那広域連合からそれぞれ講師を招いての学習会を2回開催、本年2月には学校長との懇談会を行う等、役員会レベルでの対応を図ってきました。また昨年9月には地域協議会事務局での同窓会からの意見聴取が行われ、会長以下4名が出席しました。

本年6月、地域協議会は県教委への意見書案をまとめ、上伊那地域に一定規模を維持していく都市部存立普通校が必要と強調、また、この地域にまだ設置されていない総合学科高校や総合技術高校も設置が望ましい、としています。

社会の大きな変化や少子化が顕著である状況の中、後輩たちがよりよい教育環境で学ぶことができるためには何らかの改革は必要との認識の中で将来を見据えて、同窓会として何を後輩に残していったらよいのかを見極めてこの課題に対処しなければならないと思えます。今後も県教委や広域連合の動向に注目し、情報を迅速に把握し、会員の皆様に正確にお伝えしていきます。



◆平成30年度 事業報告◆

事業

事業名	内容
会費制の充実、整備	◇平成30年度新生より在学時の終身会費納入が導入された。 ◇支部役員会へ積極的に参加することにより、支部の状況を把握し、また、会費制の定着を図るための資料の提供を行う等、会費制について周知徹底を図った。
組織の充実	◇会費集金額の2割を還元し、組織の充実、活動等の資金として活用できるよう支援を行った。
情報の発信	◇会報を発行し、全会員、教職員、在校生へ配布した。 ◇ホームページを活用して迅速な情報発信を行った。
母校の教育活動支援	◇教育諸活動への支援を行った。 ・クラブ活動助成(全国大会出場クラブ、総会協力クラブ) ・学力向上、進路実現のための支援事業(弥生塾)への助成 ・学校備品の寄贈 ◇卒業生への記念品(卒業証書ホルダー)の贈呈。
高校への改革	◇地域懇談会、地域協議会、学習会等への参加を通して状況の把握を行った。 ◇意見聴取により意見要望を提出した。 ◇学習会、委員会、懇談会を行い、情報の把握、研究協議を行った。

■ 会議等 ○総会1回 ○理事会3回 ○常任理事会3回 ○専門委員会11回

■ その他 ○高校改革に関する学習会
○上伊那地域の高校の将来像に係る意見聴取
○母校文化祭作品展示
○全国大会出場クラブ激励会
○卒業生記念品贈呈式
○同窓生学校訪問受け入れ
○PTA・学校・同窓会三者懇談会 他



卒業証書ホルダー贈呈式

平成30年度 一般会計 決算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

収入 11,602,011円
支出 11,107,516円
差引 494,495円 (次年度へ繰越)

収入の部

単位:円

科目	予算額	決算額	増減	摘要
1 繰越金	573,156	573,156	0	前年度より
2 会費	8,220,000	11,014,000	2,794,000	会費
3 繰入金	0	0	0	
4 雑収入	844	14,855	14,011	預金利息、寄付金 他
合計	8,794,000	11,602,011	2,808,011	

支出の部

単位:円

科目	予算額	決算額	増減	摘要
1 事務費	3,690,000	4,204,076	514,076	報酬、事務用品、光熱水、通信、印刷
2 交際費	140,000	142,464	2,464	祝儀、香典、饗別他
3 会議費	60,000	87,974	27,974	理事会他
4 旅費	100,000	103,470	3,470	理事会、東京支部総会
5 事業費	4,370,000	4,262,072	△107,928	総会、広報、支部活動、教育活動支援
6 広告費	250,000	242,460	△7,540	新聞広告代
7 繰出金	180,000	2,065,000	1,885,000	特別会計(終身会費積立)へ
8 予備費	4,000	0	△4,000	
合計	8,794,000	11,107,516	2,313,516	

△: 決算額が予算額より少ない場合

平成30年度 終身会費積立 決算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

単位:円

前年度末積立額	今年度変動額				今年度末積立額
	繰り入れ額	繰り出し額	利息	計	
10,940,619	2,065,000	*1,743,000	77	322,077	11,262,696

※この金額は一般会計の収入の部の会費に繰り入れました

平成30年度 基金積立会計 決算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

単位:円

前年度末基金額	今年度変動額				今年度末基金額
	積立額	取崩額	利息	計	
4,203,115	0	0	356	356	4,203,471

監査の結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

平成31年4月10日

監事 原 紀子 金澤妙子

◆令和元年度 事業計画◆

【目 標】 ◇同窓会組織および活動の充実、発展 ◇母校の教育活動支援

【活動の重点】 ①本会、支部組織が機能、充実するために会費制をはじめとした必要な環境整備を行う
②情報を積極的に発信する ③教育活動支援を行う ④高校改革への対応を行う

【具体的推進事項】

活 動	内 容
組 織 の 充 実	◇会費制の定着を図るため、継続した検討、周知を行う。 ◇支部組織がより機能するための支援を行う。 ◇会運営を円滑に行うために必要となる規定の整備を進める。
情 報 の 発 信	◇会報の発行 ◇より多くの会員が興味を持てるよう、ホームページを活用し、積極 的、効果的な情報の発信を行う。
母 校 の 教 育 活 動 支 援	◇教育諸活動への支援を行う。 ・クラブ活動助成 ・学力向上、進路希望実現のための支援事業への助成 ・その他必要な助成 ◇卒業生へ記念品(卒業証書ホルダー)を贈呈する。
高 校 改 革 へ の 対 応	◇状況の把握、提供 ◇対応についての研究協議

※上記活動を次の各組織、会議を中心として推進する

○ 正副会長会・同窓会業務推進等全般について検討する

○ 常任理事会・同窓会活動を推進し、組織の確立を図る

・次の専門委員会を設置し、課題解決、効果的な活動の推進を行なう

専門委員会 ①組織委員会

：同窓会組織の充実、支部組織の強化、整備、会費制の充実、整備を行う

②教養文化委員会

：同窓会主催の講演会、音楽会等の企画、弥生展の企画、母校文化祭への作品出品等の企画を行う

③広報委員会

：会報の発行、ホームページの整備を行う

④高校改革研究委員会

：県教育委員会が推進する第2期高校再編計画を受けて、迅速な動向の把握、情報収集を行い、その対応にあたる。

○ 理 事 会・各支部長により構成し、年2～3回開催、活動推進について協議、提言を行う

○ 総 会・年1回開催し、事業、決算、予算等の承認を行う



令和元年度 一般会計 予算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

収 入 11,210,000円

支 出 11,210,000円

差 引 0円

収入の部

単位：円

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 繰越金	494,495	573,156	△78,661	前年度より
2 会 費	10,715,000	8,220,000	2,495,000	会費
3 繰入金	0	0	0	
4 雑収入	505	844	△339	預金利息他
合 計	11,210,000	8,794,000	2,416,000	

支出の部

単位：円

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 事務費	4,210,000	3,690,000	520,000	報酬、事務用品、光熱水、通信、印刷
2 交際費	140,000	140,000	0	祝儀、香典、饗別他
3 会議費	80,000	60,000	20,000	理事会他
4 旅 費	100,000	100,000	0	理事会、東京支部総会
5 事業費	4,785,000	4,370,000	415,000	総会、広報、支部活動、教育活動支援
6 広告費	250,000	250,000	0	新聞広告代
7 修繕費	200,000	0	200,000	備品修繕等
8 繰出金	1,440,000	180,000	1,260,000	終身会費積立会計へ
9 予備費	5,000	4,000	1,000	
合 計	11,210,000	8,794,000	2,416,000	

△：予算額が前年度予算額より少ない場合

令和元年度 終身会費積立 予算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

単位：円

前年度末積立額	今年度変動予定額				今年度末積立見込額
	繰り入れ額	繰り出し額	利息	計	
11,262,696	1,440,000	*2,133,000	304	△692,696	10,570,000

※この金額は一般会計の収入の部の会費に繰り入れます

令和元年度 基金積立会計 予算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

単位：円

前年度末基金額	今年度変動予定額				今年度末基金見込額
	積立額	取崩額	利息	計	
4,203,471	0	0	529	529	4,204,000

同窓会を会員の皆様お一人お一人にとって身近なものとし、母校の発展のため支援をしていく役割を果たすために、ご意見をお伺いし、ご理解いただける同窓会をめざしてよりよい組織にまいります。



母校は明治 44 年、郷土の期待のもと、町立伊那実科高等女学校として開校され、昭和 24 年には長野県伊那弥生ヶ丘高等学校となり、また昭和 52 年には男女共学校となって歩みを重ねてきました。

創立 108 年となった本年度は、各学年 6 クラス、722 名の生徒が「伝統的な校風である“自主自立・文武両道”の精神のもと、文化や社会の担い手としての全人的教養とともに、理性的判断力、豊かな創造力を備えた人間を育てる。」の教育目標のもと、将来の夢や目標に向かって、人とのかかわりを大切にしながら、学習や学校行事、クラブ活動にと意欲的に取り組んでいます。

卒業生の進路状況 (平成 31 年 3 月)

平成 31 年 3 月、239 名の卒業生がそれぞれの新しい道へと羽ばたいていきました。その進路状況は次のとおりです。

	進 学						計	就 職		計	その他		計	合計
	国公立大	私立大	国公立短大	私立短大	医看専門	他専門		公務員	民 間		浪 人	その他		
男	29	53	1	0	4	6	93	0	3	3	10	0	10	106
女	29	74	1	7	10	6	127	0	4	4	2	0	2	133
計	58	127	2	7	14	12	220	0	7	7	12	0	12	239
合格延数	63	363	6	12	23	14	481							481

- ・ここ数年で県内に公立大学が相次いでできたこともあり、県内進学の実績が増え、また最近の生徒の傾向が地元志向が強いこともあり、卒業生の 3 割が県内での進学、就職となっています。
- ・進路の多様化に合わせ、生徒のモチベーションや進学意識を高めるため、キャリア教育、大学連携講座等進路を考える機会や就業体験・模擬授業の受講など、実際に参加、体験することを通して職業観や探究心を育成しています。
- ・創立百周年記念事業により整備した「日輪館」を有効に活用し、生徒が日々切磋琢磨している姿が見られます。

本年度 各大会の状況

(令和元年 6 月までの
主な結果、状況)

《高等学校総合体育大会》 【県大会出場】

女子バレーボール・女子バスケットボール・女子テニス
男女ソフトテニス・女子卓球・女子ソフトボール・弓道
剣道・陸上・空手

【北信越大会出場】

男女ソフトテニス・男子ソフトボール・少林寺拳法

【全国大会出場】

女子ソフトテニス・少林寺拳法

《全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール》・《2019 佐賀総文祭》 器楽部

昨年度の主な活躍

- ソフトテニス：天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会（10 月 熊本市）
- ダンス：ダンスドリルウインターカップ 2019
第 10 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会（1 月 武蔵野市）
- 少林寺拳法：全国高校選抜大会（3 月 香川県善通市）

野球部

野球部は現在、3年生17人、2年生6人、1年生11人、マネージャー6人の計40人で活動を行っています。

弥生野球部のチームプランは、バントや足を絡めた攻撃、ピッチャーを中心に「4-3で守り勝つ!!」のために、日々練習を行っています。

練習では、より実戦に近い打撃、守備、走塁練習を行い、最近では下半身強化のためタイヤ押しも取り入れています。

昨年秋季大会では、南信3位、県ベスト16、今年春季大会では、南信準優勝、さらに上伊那交流戦では2期連続優勝するなど上位に位置しています。

野球部は代々先輩から引き継がれている「毎日部活後に行う環境整美」を大切に、野球ができる事への感謝を忘れず、また校内行事においてもその存在感を発揮し様々な分野で盛り上げていける部活にしていきたいと思っています。



女子バドミントン

私たち女子バドミントン部は現在計25名で活動しています。他の部活に比べて練習時間が短く、使用できるコートも少ないため空き時間ができてしまいます。私たちはその時間を、ランニングや筋カトレーニングにあてて有効に使っています。大会前のランキング戦では全員が本気で取り組み、終わった後にはお互いにアドバイスをもらいます。その積み重ねによって自分の弱点を知り、次の練習に活かすことができる良い機会となっています。

また、モチベーションを上げるために、声出しや普段の挨拶、礼儀を大切に、弥生の代表として胸を張って大会や練習試合に参加できるように心がけています。

女子バドミントン部の部員は元気で明るい人が多く、先輩と後輩の仲が良い楽しい部活です。部活動と行事等のメリハリをしっかりとつけ、全員が一丸となってひとつのことを達成できる、素敵で充実した部活にしていきたいです。

邦楽部

私たち邦楽部は、現在3年生4名、2年生5名、1年生2名の計11名で活動しています。

本校の創立と同時に創部されたと言われ、108年の歴史を誇るとても伝統ある部活です。本校OGである外部指導者の氣賀澤先生をはじめ、邦楽部の先輩方から常々熱心なご指導をいただいています。

主な活動は、県フェスティバル、老人ホーム訪問、文化祭や音楽会そして同窓会総会などの演奏ですが、今年はいよいよ外部団体に招かれての演奏会も計画されるようになりました。

昨年は、長野県が総文祭開催地であったため、県歌「信濃の国」のアレンジである「Sparkling 信濃」を、松商学園や飯田高校と合同で演奏する機会もありました。この時には、かつては全国大会出場常連校であったこの部活を再び活気づけ、このすばらしい伝統を引き継いでいきたいと心から思いました。



会 員 各 位

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会長 下 島 典 子

令和元年度年会費、終身会費納入のお願い

平成30年度同窓会費を納入いただきましてありがとうございました。

皆様からの会費に支えられ、次のような活動を行ってまいります。本会の安定的な運営と母校への支援のため、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■会報の発行

■支部活動等の支援

■弥生展、講演会、演奏会などの開催 ■クラブ活動の助成と教育活動の支援

※昨年度母校に寄贈した備品等は別紙をご覧ください

●金 額 25,000 円（終身会費） 次のいずれかの方法でお願いいたします。

- ① 25,000 円を一括納入
- ② 59 歳までに 15,000 円、60 歳時に 10,000 円を納入
- ③ 毎年 1,000 円を納入
- ④ 特例措置として、次の年齢の方はこの方法で納入できます
60 歳以上：10,000 円
70 歳以上：5,000 円
80 歳以上：名誉会員のため任意

- 納入方法 〈上伊那地区〉 支部役員が訪問しますのでその際に納入していただくか、振込用紙にて郵便局よりお振り込みください。
〈上記以外〉 同封の振込用紙にて郵便局よりお振り込みください。

- 納入期限 令和元年 11 月末までにお願ひします。

※ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

編集後記

新時代「令和」を迎え、母校、後輩の活躍を祈り、高校再編の嵐を乗り切り、同窓会のますますの発展を祈ります。

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会報 第 10 号 令和元年 8 月 1 日発行

発行人：伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 同窓会長 下島 典子
〒 396-0026 長野県伊那市西町 5703
TEL/FAX.0265-76-0615 E-mail : yayoidoso@heart.ocn.ne.jp

題 字：花岡多賀（旧姓：北林・高女 36 回）伊那市西春近在住

印 刷：有限会社マスマタ印刷

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 HP：<http://www.inayayai-dosoukai.com/>

